

宗教者が語る

憲法九条

場所

西大寺

(境内)

興正殿

協力券  
500円

佐伯快勝師講演会

真言律宗総本山西大寺宗務長・浄瑠璃寺住職・「宗教者九条の和」呼びかけ人



九条は世界の宝や!

日時  
11月14日  
土曜  
午後2時

主催 「佐伯快勝師講演会」 実行委員会 電話 090-1220-7112

構成団体 「九条の会」 奈良・奈良宗教者九条の会・西大寺九条の会・あやめ池学園南九条の会・他

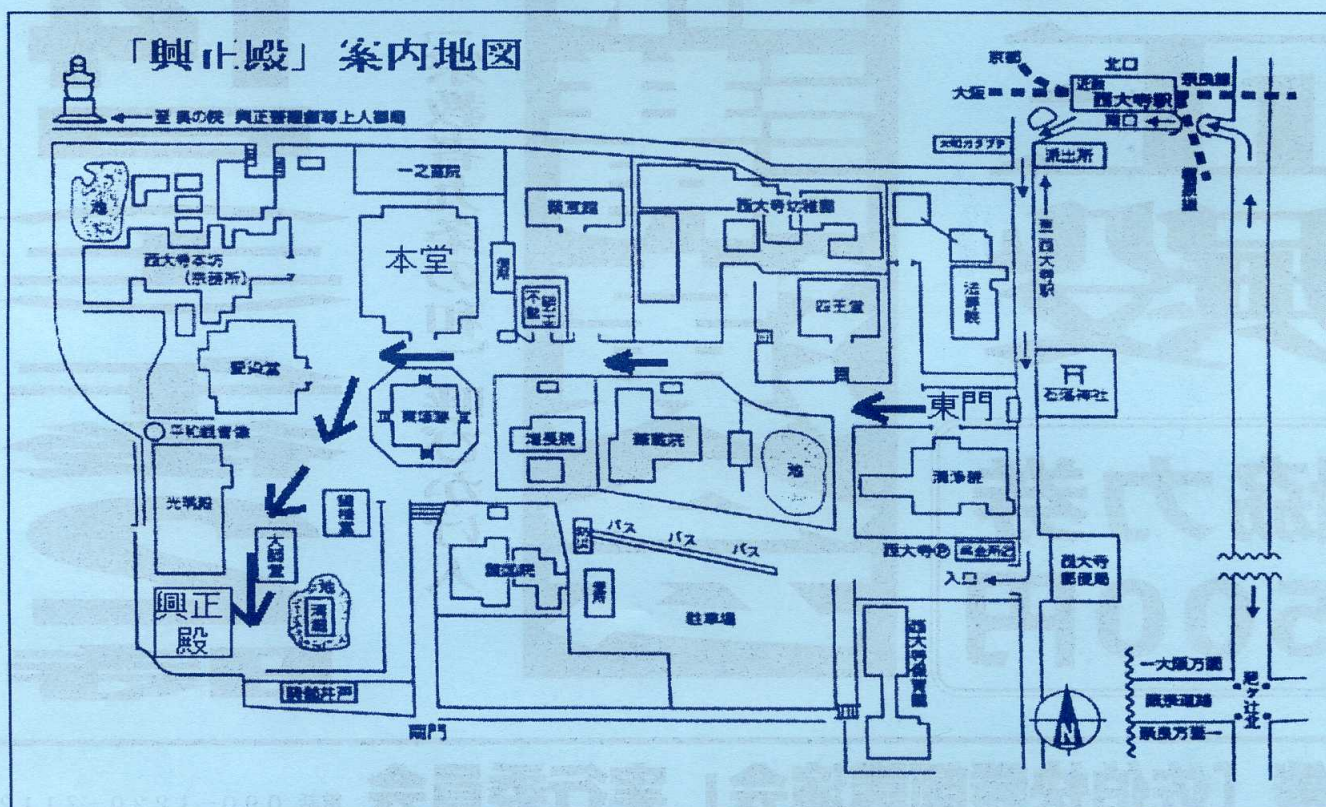
## 佐伯快勝師の経歴

小田原山浄瑠璃寺住職。1932年、奈良県に生まれる。1955年、奈良教育大学卒業（国文学）。公立中学校教師を六年間つとめたあと浄瑠璃寺に入り、1968年、父・快龍師の跡をうけて同寺住職となり、現在に至る。「小田原説法」と題した説法誌も出している。1980年まで、京都府教育委員をつとめる。著書；「入門・仏教の常識」「入門仏事・法要の常識」「巡礼大和路の仏像」「古寺巡りの仏教常識」「菩薩道」「仏像を読む」「ブラフト神父との対話集・釈迦とキリストとの対話」。「宗教者九条の和」よびかけ人 奈良宗教者九条の会よびかけ人

## 師が語る「真言律宗」

宗祖は興正(こうしょう)菩薩(叡尊:鎌倉中期の律宗の僧。西大寺の中興開山:1201-1290)と言いまして、いわゆる、西大寺・叡尊さんです。この方が鎌倉時代に興した奈良仏教の一つなんです。今の「何宗何派」ということは、昔はないわけですし、このお寺も出来た時には、何宗もないわけです。どの勉強もみんなそのお寺でやるわけです。だんだん鎌倉時代あたりには宗派が出来上がってきます。その中で「真言」というのはいわゆる大自然の神秘が、いのちの世界、そこに仏をみ、神をみるわけですね。そういうことが、「大変な時代になるほど大事なんだ」ということを、醍醐寺で勉強なさっていた時に、叡尊さんが師匠に教えられるわけです。こういう酷(ひどい)時代の凡(たふ)夫(ふう)に、「真言密教こそ妙薬だ」と。ところが、そのことを受けて真言の勉強をすうとなさるんですけど、そこで真言の勉強をしている人間自体が「どうもおかしい」と。はっきりと、「魔道に墮(お)つ」と。なんという言葉をお使いになっていますね。「真言の輩(や)から、多く魔道に墮(お)つ」と。「何でこういうふうな酷(ひどい)状態になっておるのか」ということを、また勉強したら、「仏教で一番大事な戒律がおろそかにされている」と。平安の末期から、この辺りがその一つの拠点なんです。真面目な坊さんたちが「戒律復興」という運動を興してありまして、それに組み合わさります。そして、結局は、「真言」と「戒律」とを車の両輪のようにする。この教えこそが大事だということで、それが一つの宗派になるわけです。それで「真言律宗」という。

(平成12年3月12日に、NHK教育テレビの「このころの時代」)より



東門より入り→本堂を通り・左折→境内を西進(看板あり)→興正殿に至る